

大工棟梁検定（九州地区）が九州職業能力開発大学校を会場に開催されました。

世界では、さまざまな分野で自動化や機械化が進められています。国内の建築分野においても同様ですが、日本の伝統的な木造家屋の建築には、過去から受け継がれてきた技能・技術が欠かせません。この分野では、今も大工技能者の活躍が求められていますが、技能者の人材不足が大変危惧されています。

今年、若手大工技能者の育成を目的とし、「平成の大工棟梁検定」がスタートしました。一般社団法人全国古民家再生協会並び一般社団法人全国新民家推進協会により全国の各地区で実施され、九州地区では、当校が会場となりました。（11月17日実施）

当会場では、11名の若手大工技能者が参加し、学科試験と実技検定が行われました。実技検定では、鋸やノミ、鉋などを使い課題の制作に取り組みました。検定終了後は、検定委員と受験者が一緒に各々の完成品の批評を行いました。

大工棟梁検定は、来年以降も実施される予定です。この検定をとおり、大工に興味を抱く若者が増えてくれることを願うとともに、人材育成の推進に期待が寄せられています。



